

認知症 希望のリレーフォーラム in 藤枝

ともに生き生き暮らせるまちを一緒につくろう！
～ 希望大使とともに、みんなでアクション～



2026年2月20日 生涯学習センター

主催：厚生労働省

共催：藤枝市

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ



プログラム

時間	内容	登壇者(敬称略)
13:30	ごあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省老健局 認知症施策・地域介護推進課 課長補佐 梅本 裕司 藤枝市 副市長 大畑 直己
13:40	1. 本人・活動パートナー座談会 	<ul style="list-style-type: none"> 藤枝市 長谷部 保 藤枝市地域包括ケア推進課 横山 麻衣 全国版希望大使 柿下 秋男 パートナー：柿下 房代／「ごっちゃんまぜ」等とともに活動 パートナー：鈴木 裕太／社会福祉法人新生寿会 全国版希望大使・京都府認知症応援大使 鈴木 貴美江 パートナー：鈴木 祐三子／岩倉のカフェ等とともに活動 パートナー：松本 恵生／京都市岩倉地域包括支援センター 応援役：認知症介護研究・研修東京センター 副センター長 永田 久美子
14:40	休憩(15分)	
14:55	2. リレートーク 	近隣のまち等の本人・活動パートナーから <ul style="list-style-type: none"> ➤ 北海道：松本 健太郎(ほっかいどう希望大使) ★動画 ➤ 静岡県藤枝市：片山 美さ子(本人)、嵐口 弘敏 ➤ 静岡県島田市：河村 朋幸(本人) ➤ 神奈川県：伊藤 敬子(かながわオレンジ大使)、 鈴木 しげ、杉本 香子 ➤ 会場展示・企画から 静岡県藤枝市：後藤 光子、増田 伊津雄 京都府：鈴木 貴美江 ほか 進行役：長谷部 保・横山 麻衣(藤枝市)
15:30	閉会	



1. 本人・活動パートナー一語座談会 登壇者紹介

長谷部 保さん 藤枝市在住



- 医療関係の仕事をしていました。
- 退職後、町内会活動や交通安全指導などの地域活動を続けています。
- 子どもの登校の見守りは11年間続けています。
- 毎朝、子どもの「おはよう」や「ありがとう」の声から元気をもらっています。
- 認知症は、誰もがなり得るものだと思っています。



わたしが大切にしていること!

- 自分でできることをみつける。友達をつくる。
- 見守り活動や、掃除、ごみ出し、花壇の手入れや野菜作り等、日々の暮らしに参画する。
- 現状を知ってもらうこと。自分の現在を理解してくれる人を見つけることが大切、重要!
- 理解してくれる人の輪が広がるよう、自分で働きかけることが大切。
- “やっちゃあいけない” じゃなく “一緒にやろう”。
- 一日、一週間でどう過ごすか考えるようにしている。
- 5W1Hを手帳に書くことを心がけています。Plan do C!
- 人は一人では生きていけない。人は一人じゃないよ。周りには色々な方がいる。お互い様が大切。

Point!

長谷部さんと一緒に座談会、リレートークをアシストします!

横山 麻衣さん
藤枝市地域包括ケア推進課
認知症地域支援推進員





柿下 秋男さん 全国版希望大使／東京都在住



- 退職後、「みんなの談義所しながわ」との出会いをきっかけに、地域の仲間と一緒に、ミーティングセンターめだかの会、デニーズでの本人ミーティング等の活動を行ってきた。仲間がいればやりたいことが叶えられる。みんなでやれば楽しい。
- 病院のデイケアの芸術療法から始まったアート活動もライフワークのひとつ。アトリエに定期的に通い、仲間とともにアートコミュニケーション。2025年冬には個展も開催した。
- 活動を通じてあたためてきた、いつでも、どこでも、だれでも、気楽に集まれる居場所「ごっちゃませ」を2025年8月にオープン。カフェの営業をしながら、さまざまな人が出会い、つながり、新たな可能性を広げていこうと、仲間と楽しんでチャレンジしている。



「みんなの談義所しながわ」の仲間



妻
房代さん
ともに活動



パートナー

鈴木 裕太さん
社会福祉法人新生寿
会／認知症地域支援
推進員／認知症介護
指導者

アート
コミュニケーション

手が勝手に動くんだ!

去年は個展を開いた




鈴木 貴美江さん 全国版希望大使／京都府在住



誰かのお役に立つ事が私の元気の源になっています。周りのみなさんに支えて頂き今とても幸せで、感謝の気持ちで一杯です。

- 診断後、引きこもりがちになったが、主治医より認知症カフェの手伝いを勧められ、京都・岩倉地域での農作業・マルシェなどに参加、現在の活動につながった。
- オレンジカフェやワークショップの集まりでは、他の地域にも出張して挽きたてのドリップコーヒーを提供したり、地元でも居場所作りに奮闘している。認知症サポーター養成講座でも発信している。
- 自転車に乗ることを目標に、練習した初日にこれを達成。その後、ボーリングなど、楽しみながら、次々とチャレンジしている。



会場で、おいしい
コーヒーをどうぞ!



農園倶楽部



松本 恵生さん 娘 祐三子さん
京都岩倉地域包括支援センター
センター長、主任介護支援専門員

パートナー



2. 本人、活動パートナーによるリレートーク 登壇者紹介

静岡県 藤枝市から

片山 美さ子さん

- ヘルパーさんのサポートを受けながら、一人暮らしをしています。
- 家にこもらず、毎日外に出て散歩をしています。歩いた歩数をカレンダーにつけていて、毎日の励みになっています！
- 廃材(トイレトーパーの芯やハギレ)を使った、お人形を作ることも日課の一つです。
- 朝起きたときに、不安な気持ちになることがありますが、壁に貼った孫の写真を見て心を落ち着けています。



自分の思いをみなさんに知ってもらいたいと思っています！



嵐口 弘敏さん
社会福祉法人富水会
第2開寿園居宅介護支援事業所
管理者兼主任介護支援専門員

片山さんのケアマネを担当させて頂き、約2年となり、紆余曲折を経て現在に至ります。

片山さんは、私に、認知症に対する考えに新しい気づきを与えてくださいました。

中でも、認知症になってからの思いや考え方の変化、葛藤は強く印象に残っています。

片山さんが、片山さんの言葉で今の思いや当時の心境を伝えられたら、これからの「希望ある認知症観」をみんなで共有できるのではないかと感じています。

現在、片山さんが当たり前のように過ごされている生活は、これから認知症になるかもしれない私たちや、認知症の当事者の方にとっての希望になると思いますので、これからもヘルパーさんのサポートを受けつつ、片山さんの望む生活を送って欲しいと思います。

静岡県 島田市から



河村 朋幸さん

- 好きなことは草とりや畑など、外での作業！
そういう場所がたくさんあると、すごく嬉しい。
- マルシェにも仮装して参加しました。
子どもと接することができ、楽しい時間でした。





神奈川県から

伊藤 敬子さん かながわオレンジ大使



これからも、初期の段階で
つながる大切さを伝えたい!

パートナー



新しい『行政』観で、行政が希望を持って働ける共創社会を!

鈴木 しげ NPO法人ライフセラピー研究所
(かながわオレンジ大使をアシスト)



本人も、家族も、笑顔で最期を送れるように
杉本 香子 NPO法人ライフセラピー研究所
(かながわオレンジ大使をアシスト)

北海道から

松本 健太郎さん ほっかいどう希望大使



- ・ 静岡市で生まれ、小5~18歳まで藤枝市で過ごしました。
- ・ 今は食事、運動、睡眠に気をつけています。
- ・ 職場やパートナーの応援をうけて、働き続けています。
- ・ 今の仕事や、みなさんに伝えたいことをまとめ、お話して動画にしました。当日ぜひご覧ください!

藤枝でまた、お会いしましょう!

会場展示・企画

お抹茶のおもてなし 後藤 光子さん

みなさま、お抹茶を点てて
お待ちしております!



後藤 光子さん 増田 伊津雄さん

楽しく過ごすことが1番大切なことだと思っています。

増田さんは後藤さんの暮らす、愛の家グループホーム藤枝高柳の職員です。当日、後藤さんのお抹茶のふるまいをサポートしてくれます。リレートークにも一緒に参加してくれます。



珈琲のおもてなし 豆の焙煎はマイWayサードプレイスのみなさん
淹れるのは鈴木 貴美江さん



前田 博樹さん たち

マイWayサードプレイス
神奈川県内の若年性認知症
の方たちのはたらく場。
特定非営利活動法人
マイWAY



鈴木 貴美江さん

お茶うけ



パン遊房亀吉のパン
(就労B型)



会場では、手作りの人形やお花、写真、絵など、本人によるさまざまな作品を展示しています。
ぜひ、ご覧ください!

<参考資料>

希望大使について

- 厚生労働省は、認知症の人本人からの発信の機会が増えるよう、認知症になっても希望を持って前を向いて暮らすことができている姿を積極的に発信している認知症本人7人を「希望大使」として任命しています。
- 「希望大使」は、国が行う認知症の普及啓発活動への参加・協力、国際的な会合への参加、認知症とともに生きる希望宣言の紹介等に取り組んでいます。
- また、全国それぞれの地域で暮らす認知症の人と共に普及啓発を進める体制を整備し、本人発信の機会を拡大することを目的に、都道府県ごとに「地域版希望大使」の設置を目指しています。
- 2025年12月末時点で26都道府県において約100名の「地域版希望大使」が任命され活躍をしています。



「新しい認知症観」について

- 「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」という考え方です。
- 「認知症になったらなにもわからなくなる、なにもできなくなる」、といったこれまでの考え方を、「新しい認知症観」に変えていくことが、ともに自分らしく暮らし続けていくための大事な一歩です。
- 希望大使をはじめ、各地で活躍する本人たちが、自らの姿と声を通じて、「新しい認知症観」の実感的理解を広げています。

●「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会である共生社会の実現の推進を目的として令和6年1月1日に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。

●「認知症施策推進基本計画」

基本法に基づき、令和6年12月3日に閣議決定。

前文で「認知症の人本人の声を尊重し、「新しい認知症観」に基づき施策を推進する」と明記されています。

詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。





本人とともに
「希望のリレー」のバトンをつなごう

2026年2月20日